

量目過不足の原因と防止策

◎過不足の多い商品形態

- (1) 付加物（わさび、たれ、吸水紙等）の付いた商品
- (2) 定額（定量）売り商品
- (3) 店頭陳列期間が長い商品（売れ残る商品）

◎過不足の原因

- (1) 風袋量が原因となっている場合（不足のほとんどがこれによる）
 - ㊶ 風袋込みで計量している
 - ㊷ 風袋量を確認せず目見当で風袋量を設定している
 - ㊸ 付加物（わさび、たれ、吸水紙等）の重量を差し引いていない
 - ㊹ ラップ後計量する商品で、ラップの重量（2～4 g）を無視している
 - ㊺ トレイの大小、材質の違いを無視し、一律の風袋引きしか行っていない
 - ㊻ トレイの種類が変わっても以前の風袋設定のまま計量している
- (2) 計量作業者が原因となっている場合
 - ㊼ 計量器の風袋設定を忘れている
 - ㊽ パート・アルバイト等に対する計量教育不徹底
 - ㊾ トレイの種類が変わっても以前の風袋設定のまま計量している
 - ㊿ 定額（定量）売り商品の計量が面倒で、計量が不正確になる（バラツキがある）
- (3) 自然減量が原因となっている場合
 - ㊿ 店頭陳列期間が長い商品は、乾燥による不足が生じる（塩干品・青果物など）
- (4) 計量器が原因となっている場合
 - ㊿ 計量器の据え付けが悪い（水平でない、零点設定、据付台の不安定など）
 - ㊿ 計量器のまわりが乱雑（計量器に異物が挟まっている、物が接触している）
 - ㊿ 精度の粗い計量器で少量の計量をする

◎量目過不足を防止するための留意事項

- (1) 付加物（わさび、たれ、吸水紙等）の付いた商品は、確実にその量を引く
- (2) 店頭陳列期間が長い商品は、再計量する
- (3) 定額（定量）商品の計量は、丁寧に行う
- (4) 作業する者がいつでも確認できるように、各部門（農産・畜産・水産）に風袋見本を作成し、展示しておく
- (5) 計量器チェック用の分銅を備付け、作業前に計量器のチェックを行う
- (6) 計量担当者を決め、商品の量目について毎日抜取検査を行い、正確計量の確保に努める
- (7) 定期的に従業員への計量教育を行い、適正計量の認識を深めるとともに、新人に対しては計量指導を徹底する